

令和 8 年度

第 1 回

教育課程編成委員会報告書

令和 8 年 8 月 4 日

学校法人長野県理容美容学園

長野理容美容専門学校

第1回教育課程編成委員会 報告書

日時：令和8年8月4日(科)14:00～

場所：長野理容美容専門学校 校長室

出席者：SORA 伊藤先生 スタジオ エーワン 小出先生

松林校長・柏原教務主任・中澤主任

1、校長挨拶

学校教育法改定が改定され、入学資格も大学、短期大学同等ということになった。専門学校卒業の価値がぐっと上がった。単位制に変更になり、うまくいったこと、困難なことなどが出てきているが、現代にあった内容にしていかなければならない。毎回、先生方に様々な貴重なご意見頂戴し、大変ありがたく、今日も忌憚ないご意見を頂戴したい。

2、自己評価委員会、学校関係者委員会報告

基準1から基準10までについてそれぞれの委員からのご意見を報告

- ・学校管理システム導入
- ・国家試験学科の強化
- ・学生募集の工夫
- ・教員募集

伊藤委員：基準2 教員不足の今、1人1人の負担が大きい。早急に対応していかなければならない。基準3 学科で不合格になる学生が多いとのこと。若者にはマニュアルが動画であるとわかりやすいようだ。パワーポイントの授業は覚えるべきポイントがわかりやすいと思う。基準4 休退学者が減っているのはよいこと。基準5 奨学金利用者が多い。サロンでも返済などについて把握し、苦しいときに立て替えるなどのフォローも必要。基準6 学生にとって恵まれた教育環境。カットはブローまで仕上げないとスタイルがわからない。全員がスタイルを完成させることができる学校はなかなかない。基準7 新潟の学校はよく聞く。上越、富山、群馬も対象に入っていると思う。良さをアピールして行ってほしい。ナガコレは美容を知っていただくための良い機会。小学生からの体験も重要。ヘアショーは憧れに繋がり、体験は楽しさに繋がっていく。どちらもよい経験になると思うので、ぜひ参加して行ってほしい。

小出委員：基準2 人材確保に苦労されている様子。マイナビやインディードなど新しい業者にも働きかけているとのことだが。

松林校長：HPにも採用について載せていく予定。

小出委員：基準4 資格試験合格率に学科試験不合格者で苦労しているとのこと。不合格者は身に染みて感じていると思う。悔しさをばねにして合格し、立派な美容師になると信じている。基準5 健康診断は非常に良い。美容師は健康第一。健康であることを意識するため

にも良い。お客様にも常に健康であることが信頼につながる。基準6 しっかり勉強できる施設設備である。最大限に生かして欲しい。基準7 上越から長野へ来てくれる学生がいるとのこと。そのまま長野の美容を盛り立てていっていただければうれしい。美容組合にも、佐久、上田からは毎年職場体験の依頼がある。小中学校の体験は未来に繋がる。

3、重点目標

- ・接客業としてふさわしい行動か問いかけていく
- ・先を読んで行動できるように指導していく
- ・授業内の工夫や対策など、職員間で共有しあう

小出委員：挨拶ができない、身だしなみが悪い、遅刻するなどの指導は、頭ごなしに叱れず、かといって優しく言っても伝わらない。大変苦労されているようだが、根気強く指導して欲しい。職員同士共有し教えるというのはよいスタイル。このまま続けて欲しい。コンテストでは各種目で入賞できたとのこと。学生もそうだが、職員も自信を持って指導して欲しい。

伊藤委員：重点目標は就職してからでも基礎となる内容。時間厳守、身だしなみ、挨拶、すべて早い段階で訓練できているとよい。自分の好きな服装やファッションを貫き通し、お客様に不快になるようではいけない。清潔であり、怖いと思われてはいけない。何事も準備7割。お客様をお迎えする前の仕事で決まる。身だしなみもその一つ。また、再試者が半数ということ。ベテランの先生方の力も借りて、学科の実力を上げて欲しい。

4、カリキュラムについて

- ・1学期の授業内容の報告と、今後の授業内容の確認
- ・企業連携授業のシラバスについて

伊藤委員：今必要と思われる美容技術がしっかりと網羅されている。広く浅く学び自分の得意を見つけていけるといい。特にシャンプーやカラーを学生の間をしっかりやっておいてくれると、入客が早くなりとてもありがたい。

小出委員：パーマの授業内容もとても良い、パーマ液の仕組みや巻き方、ブリーチ毛の注意事項など、実技をやりながら理解できると思う。シャンプーも繰り返しの練習が大事。学生にとっては良い勉強になる。

柏原：コミュニケーションの授業は、担当の先生に工夫していただいているが、限られた時間に検定対策も行うため、現場に即した内容までいかないようだ。職員研修がなかなかできないため、検討したい。

伊藤委員：コミュニケーションは大事。コミュニケーション力がないとお客様は来なくなってしまう。お客様の言っていることを理解し、提案し、スタイルへつなげていく。敬語とカウンセリングができるとありがたい。

松林校長：今の若者は、隣にいる友人とラインで会話することもあるようだ。会話が苦手という人が増えている。そういった背景も意識しながら指導していきたい。

5、学生の様子

中澤主任：コミュニケーション能力が低い学生が増えているため、友人間や職員ともトラブルがあるのが現状。職員との信頼や友人同士の思いやりなど、実習を通じて様子を見ながら指導している。真面目な学生、落ち着きのない学生や、ギャル系など様々な学生がいるため、クラス運営も難しくなっている。美容科、ビューティビジネス科共に一回で聞き取れない学生が多い。説明した端から聞き直しに来る。1回で聞き取れないのは自分のせいじゃないという自己肯定感が高い学生が多い。怒られ慣れていないため、強い指導はかえって反感を買ってしまう。考えさせる指導が良い。

2年生は早めに就職活動をし、内定者が多く、県外は30名内定を頂いている、保護者とよく相談しながら就職を決めているようだ。

ビューティビジネス科は11月のコンテストに向け、夏季休業中にも練習に来ている。

6、業界から

小出委員：1人、1人違うため同じ方向に向かせるのは難しい。学生時代コロナだったため、タブレット慣れしているせいもあると思う。技術、接客力、人間力が大事。お客様はもちろん、スタッフとも1日中狭い箱の中で仕事をしているため、コミュニケーションが大事。

伊藤委員：この頃は部活も外部委託しているようで、技術で結果を出すことに重きを置かれている。部活で培った上下関係も薄れてきている。20歳過ぎると簡単に変えられなくなってしまう。お客様のカウンセリング中にチャッピーに相談できない。聞く、理解する、カウンセリングする、自分の思っていることとお客様の要望をつなげる。繋がっていないと満足していただけない。お客様が話しかけるのを待っている人もいる。コミュニケーション力をつけていけるよう指導して欲しい。

次回令和9年3月16日(火)14:00～